

一日研 報告

- 1 期 日 10月11日 9:00~17:00
- 2 場 所 総社東公民館
- 3 参加者 O、CH、YO、AR、TA、AS、AK
- 4 内 容

戸田実践報告（CH）

ビゴツキー理論（O）

「海の命」記録・映像（YO）

「一つの花」映像・解釈（AS）

「注文の多い料理店」映像・解釈（AK）

記録（AR）

戸田学級の「ぼくのいぬころ」では、イメージを広げるときの戸田先生の演技、言葉尻だけを捉えず、「『だけ』に注目するとね」など子どもの具体的な言葉を大切に広げることなどが分かりました。戸田実践をただ憧れるだけでなく、一つでも自分のものに取り入れていきたいと思います。

ビゴツキーの理論は普段触れることのない私は、改めて理論を学び、日頃の実践の価値や意味を言葉にできることは大切だと改めて感じました。

「海の命」の記録では、難しい場面の授業でしたが、子どもたちから要素がたくさん出ました。どの言葉からイメージを広げるのか考えることで、イメージの鮮明さが変わってきます。映像だけでは流してしまいそうな言葉に立ち止まれたのも、記録があったからです。記録の大切さを改めて痛感しました。短くても記録を出せるようにしていきたいと思いません。

「一つの花」は、授業者の心の余裕が教室の雰囲気や声色に表れていて、子どもたちの考えたいものになっているかがよく分かりました。よりシンプルに、より考えやすいところで勝負していくことを考えました。ですが、これも映像を出されたから見えてきた具体的な課題です。浅越さんにとって、今後につながる貴重な一歩でした。

「注文の多い料理店」では、解釈が中心になりました。泣き方の違いや山猫の要求の中身について考えました。解釈したことを授業できるよう、再度考え直します。文責AK